

中央線が好きだ。

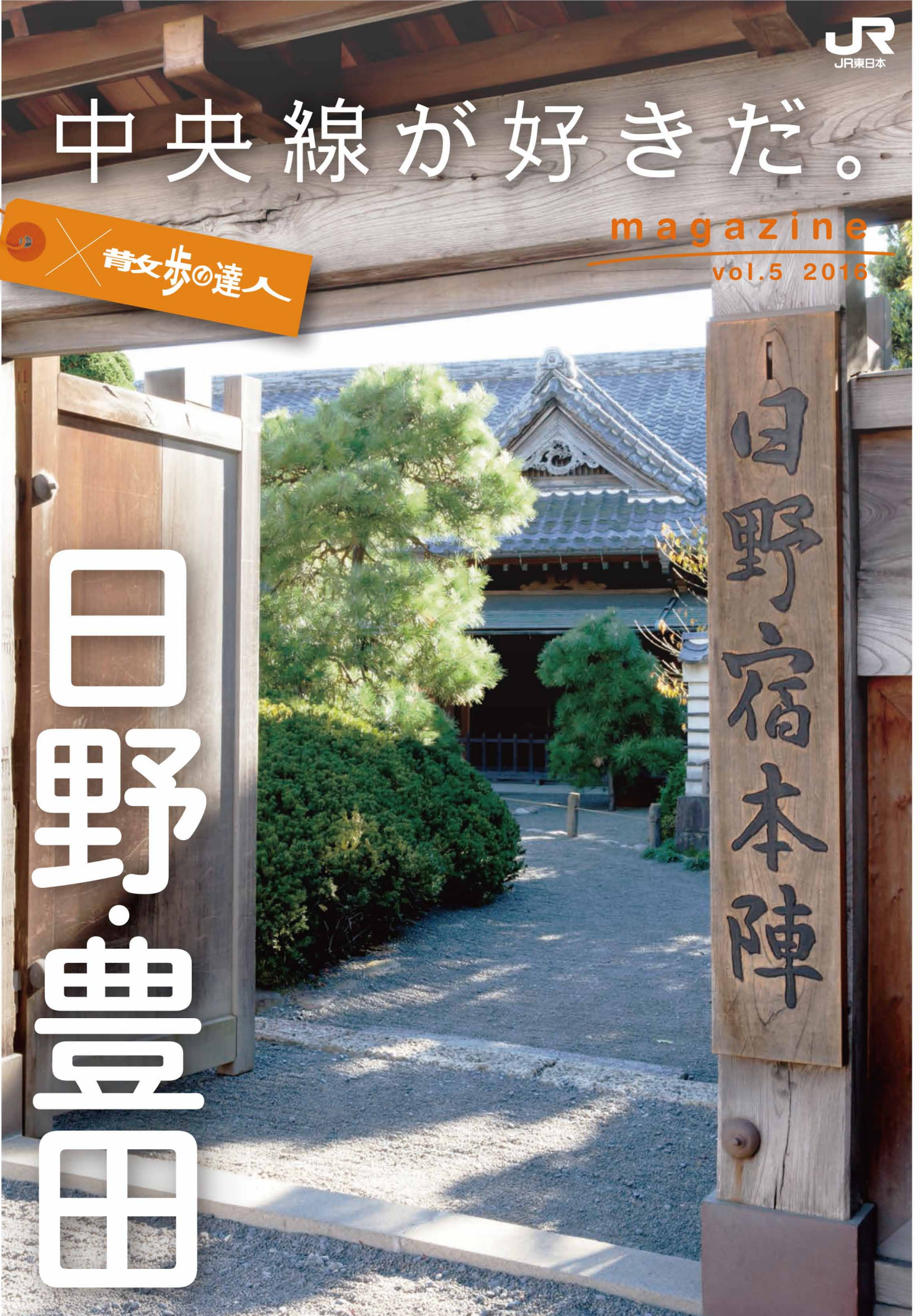
magazine

vol.5 2016

昔女歩の達人

日野 豊田

日野宿本陣



この街、 居心地・ 住み心地

こんなところに住んでみたい
江戸時代に大名など身分の高い人々が
宿泊した本陣が今も残る日野市は、
新選組の志士たちのふるさととして
も知られる。日野自動車に代表される
工業の街の顔を持つ一方、街を歩
けばあちこちで水の音が聞こえる。
そんな風景の中を歩いてみたい。



浅川に架かるふれあい橋と富士山

日野自動車本社

井上源三郎資料館

仲田の森蚕糸公園

日野用水

八坂神社

日野のブルーベリー

水と人が作り出した風景の中を歩く

仲田の森 蚕糸公園

「なかだの森であそぼう！」



子どもが自由に のびのびと

外周には水が流れる水路が造られ、園内にも水が引き込まれた自然豊かな公園。かつて養蚕や製糸の試験研究を行う蚕糸試験場があったことから「蚕糸」の名が付けられた。ここでNPO法人「子どもへのまなざし」が定期的に「なかだの森であそぼう!」という遊び場づくりをしている。子どもたちの主体性を生かし、水に入っても、どんこんなっても、危険がない限り大人たちは手を出さずに見守っている。誰でも無料で参加でき、当日は朝から日が暮れるまで、公園には子どもたちの生き生きとした声が響く。

DATA 仲田の森蚕糸公園 / JR中央線日野駅から徒歩約15分。日野市日野本町6-1。☎042・585・1111 (日野市緑と清流課) 「なかだの森であそぼう!」金・第2土・第4水曜(雨天決行)開催。10時~17時、祝日・年末年始・8月休。☎050・3721・1973(NPO法人 子どもへのまなざし事務局(月~木曜の13時~17時))

1.ひとつの鍋を囲む楽しさを味わってもらおうと毎回作っている「なかだ鍋」。2.1か月に1回、相談員が訪れ、子育てのこと、自分のことなどを話せる。3.手作りの大きなブランコは大人気。4.大きなハンモックで大人も一緒に遊ぶ。5.リヤカーだって、立派な遊び道具。6.蚕糸試験場時代の蚕室が「桑ハウス」と名付けられ残されている。7.活動日には手作りの「ようこそなかだの森へ」の旗がひらめく。

黒川清流公園



豊かな森と清流のある静かな公園

日野市の北西に広がる日野台地の斜面と湧き水を利用して整備した公園。自然を生かした公園として国土交通省の「手づくり郷土賞」も受賞している。「東京の名湧水57選」にもなっている湧水を集めた長さ約600mの水路や園内の池では、野鳥、昆虫、水辺の植物などと身近にふれあえる。また、雑木林の中には散策路が設けられているほか、テーブルや東屋があり、親子でピクニックを楽しむ。

DATA JR中央線豊田駅北口から徒歩約10分。日野市東豊田3-16-1。☎042・585・1111 (日野市緑と清流課)

1.公園内には湧き水が流れ出すせせらぎもある。2.池の上の東屋でのんびり休憩を。子どもたちに人気のスポット。3.住宅地に接する公園脇には、街中とは思えない清流が。

市の北側を多摩川、中央を浅川というふたつの大きな川が西から東に流れ、東端で合流する日野市。このふたつの川にはさまれた三角地帯には、整備された日野用水、豊田用水などのかつての農業用水路が縦横に走り、住宅地の中にもその流れを見ることが出来る。この用水路を生かした街づくりは、国土交通省より「水の郷百選」のひとつとして認定されている。

また、市の北西部に広がる台地と南部の丘陵地の崖からは湧き水があふれ、沢や池を形作っている。このような豊かな水の風景が日野市ではあちこちで見られる。

その上、住宅地や大通りを歩いていると、すぐ脇に今でもしっかりと耕されている田んぼや畑が残されていることに気がつく。かつてこの地域には水田が広がり、多摩の米

蔵」と呼ばれるほどだったという。今でも、米やさまざまな種類の野菜・果物が生産されている。市内のあちこちに設けられた直売所では、新鮮な農産物や特産の加工品の数々がそろう。

日野は幕末に名をとどろかせた新選組のゆかりの地でもある。副長の土方歳三、六番隊長の井上源三郎の資料館をはじめ、新選組関連のスポットも多く、歴史好きならぜひ訪れたいところ。

親子でお散歩を楽しめる場所にも事欠かない。日野駅と豊田駅との間の、豊富な湧き水と雑木林のある黒川清流公園では水辺や林の中の生き物を観察したり、少し暖かくなってくれば水遊びを楽しむ親子でぎわう。また、仲田の森蚕糸公園からは自然の中で思いっきり遊ぶ子どもたちの歓声が聞こえてくる。

四季の森ガーデン KIDS PARK (イオンモール多摩平の森)

平成26年11月、豊田駅近くにイオンモール多摩平の森がオープン。3階の屋外スペースには子どもの遊び場と四季折々の草花を楽しめるガーデンが設けられている。滑り台、木登りクライミング、平行棒なども導入し、オープン1周年を迎えた平成27年11月には大型複合遊具も登場。連日、親子でにぎわっている。



上/どの遊具も人気で、一日中親子でにぎわっている。下/階段の向こうには「丘の原っぱ」もある。

DATA JR中央線豊田駅北口から徒歩約3分。9時～17時(イオンモール多摩平の森の営業時間と異なる)、無休。日野市多摩平2-4-1 イオンモール多摩平の森3F。☎042-589-1300



駅近くの子どもの遊び場



水の郷を代表する用水路

日野用水上堰

日野用水は多摩川から取水し、上堰と下堰のふたつの流れに分かれ、合わせて全長39kmにもおよぶ。約450年前に開削され、江戸時代以降は豊かな実りをもたらす水田を支えてきた。農業用水としての役目はほぼ終えたが、時代を経てもかつての流れは失われることなく、現在は街にうるおいを与えている。この日野用水上堰に架けられたJR中央線の橋を支えているのも日野煉瓦工場製のレンガだ。

DATA JR中央線日野駅から徒歩約3分。



上/暗渠だった用水を6年ほど前に開渠化して流れが見えるようになった。下/緑線をくぐる日野用水の両側に重厚なレンガを見ることができる。

日野の新名物「焼きカレーパン」

平成25年、「社会福祉法人夢ふうせん」が作った焼きカレーパンが、「第4回ニッポン全国ご当地おやつランキング」で準グランプリを獲得。これをきっかけに、現在、市内の9店舗がそれぞれ工夫をこらした焼きカレーパンを売り出し中。

ショップゆめ

「夢ふうせん」が運営するベーカリーで、準グランプリを獲得した焼きカレーパンを販売している。正式名称は「華麗になる「ひののめぐみ」焼きカレーパン」。おいしさの秘密は具に入った地元産の柿のピューレと刻んだトマト。さっぱりとしていながら、ピリッとした辛さを感じ、クセになる味わいだ。同店では焼きカレーパン以外にもさまざまなパンや焼き菓子、弁当などを販売している。

DATA JR中央線豊田駅北口からバス約5分の「首都大学東京入口」下車徒歩約5分。10時30分～16時。土・日曜・祝日休。日野市旭が丘2-42-12。☎042-587-8630



隠し味は地元産の柿とトマト

上/焼きカレーパンは1つ170円。人気商品のため売り切れることも。左/ショップゆめの店内。イートインスペースもあり、コーヒー、紅茶など飲み物も販売している。

水風景を求めてお散歩すれば、あちらこちらで見かける田や畑。採れたての野菜や加工品を集めた直売所や焼きカレーパンのお店など、日野の名物を探してみよう。



レンガが語る日野の歴史

多摩川を渡る中央線。

多摩川・多摩川橋梁

東京を代表する一級河川、多摩川。そこに架かるJR中央線の橋梁を支える橋脚には、日野の歴史を物語るレンガが使われているのをご存じだろうか。明治21年(1888)に操業を開始した日野煉瓦工場で生産されたもので、翌年開業した甲武鉄道(中央線の前身)の多摩川橋梁橋脚などに使われた。日野煉瓦工場はわずか2年間で廃業したが、今も橋脚に残るレンガがその歴史を伝えている。

DATA JR中央線日野駅から徒歩約15分。



日野産トマト



ブルーベリーを摘みに行こう



上/4パックが入るオリジナルの箱は贈答用にも。左/子どもの目線の高さに実があるので、摘み取りも簡単。撮影:井上博司(ブルーベリー関連全て)

日野のブルーベリー

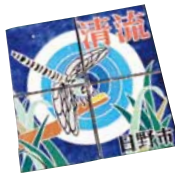
日野市の特産品として注目を集めているのがブルーベリー。日野市は多摩地域で有数の栽培面積を誇る。日野、豊田両駅の徒歩圏内にも数カ所のブルーベリー農園があり、気軽に摘み取りが体験できる。シーズンは7月中旬から9月中旬まで。粒の小さな実は子どもでも摘みやすいので、親子で楽しむのにぴったり。

DATA 日野市ブルーベリー組合加盟の農家では、摘んだブルーベリーは100g210円の共通価格。☎042-583-2111 (JA東京みなみ日野支店内日野市ブルーベリー組合)

日野・豊田 まち歩き



日野の焼きカレーパン



道に埋められた
タイル



日野産野菜を使った日替わりランチが人気です。



日野の特産品がそろった店

農あるまち日野 みのり処

地域コミュニティの拠点、日野市立七ツ塚ファーマーズセンター内にある販売所。日野で採れる新鮮な野菜を中心にそろえているほか、ブルーベリーを使った加工品なども並んでいる。さらに地元の有名店のパンや豆腐、新選組関連の商品まで、幅広い品ぞろえが特徴。イートインスペースもあり、日替わり弁当やカレーなどを提供。お昼時は特ににぎわう。

DATA JR中央線日野駅からバス約4分の「緑ヶ丘」下車徒歩約3分。10時～18時。年末年始休。日野市新町5-20-1 日野市七ツ塚ファーマーズセンター内。☎042-843-4320



絶好の富士山ビューポイント

空気が澄んだ時期は、富士山をはじめとした山々の稜線がくっきりと浮かび上がる。

ふれあい橋・浅川

市内東部の浅川に架かる白い吊り橋「万願寺歩道橋」、通称「ふれあい橋」は歩行者と自転車専用の橋。川の両岸は富士山のビューポイントとして知られ、中でも橋と富士山が重なるポイントは人気の撮影スポット。また12月には、富士山の頂上に太陽が沈む、ダイヤモンド富士が見られる。

DATA JR中央線日野駅からバス約10分の「高幡橋」下車徒歩約7分。日野市大字新井。



日野には子どもも大人も遊ばないともったいない自然がいっぱいあります。

「子どもへのまなざし」でも日野の自然の豊かさを大人にも実感してもらおうと、1年前から「大人の川あそび」を始めた。子育て中の親たちが自然への関心を高め、日野の魅力の守り手となるのが願いだ。

「子どもへのまなざし」で日野ならではの自然豊かな景観を守るにあたっては、行政とともに住民の力も大きい。環境を守るための基本計画案を住民側がまとめ、市に提出。そのプランに沿う形で街の緑や水辺を守る取組みが行われている。

「最初は水道もトイレもなく、水は自分たちで運んでいました」と中川さんは当時を振り返る。その後、仲田の森の整備が決まると、遊具などを置かず自然を生かした遊び場、という住民の要望がかない、3年前に現在の緑豊かな公園に生まれ変わった。中川さんは長女の誕生を機に、日野に住み始めて25年ほど。「ベビーカーを押して土手を散歩すると、美しい川の流れや大きな空に包まれて、なんとも幸せな気持ちになったことを思い出します」

日野ならではの自然豊かな景観を守るにあたっては、行政とともに住民の力も大きい。環境を守るための基本計画案を住民側がまとめ、市に提出。そのプランに沿う形で街の緑や水辺を守る取組みが行われている。

「最初は水道もトイレもなく、水は自分たちで運んでいました」と中川さんは当時を振り返る。その後、仲田の森の整備が決まると、遊具などを置かず自然を生かした遊び場、という住民の要望がかない、3年前に現在の緑豊かな公園に生まれ変わった。中川さんは長女の誕生を機に、日野に住み始めて25年ほど。「ベビーカーを押して土手を散歩すると、美しい川の流れや大きな空に包まれて、なんとも幸せな気持ちになったことを思い出します」

「最初は水道もトイレもなく、水は自分たちで運んでいました」と中川さんは当時を振り返る。その後、仲田の森の整備が決まると、遊具などを置かず自然を生かした遊び場、という住民の要望がかない、3年前に現在の緑豊かな公園に生まれ変わった。中川さんは長女の誕生を機に、日野に住み始めて25年ほど。「ベビーカーを押して土手を散歩すると、美しい川の流れや大きな空に包まれて、なんとも幸せな気持ちになったことを思い出します」

日野の魅力

この人に聞く

若き日の隊士の面影を訪ねて

新選組を

歩く



佐藤彦五郎新選組資料館

佐藤彦五郎は幕末期の日野宿の名主で、日野宿本陣の主でもあった。屋敷の敷地内にあった道場に通っていた近藤勇ら、新選組の中心人物たちと交流をもち、物心両面で隊士たちを支援したという。隊士ゆかりの品々が、そのつながりの深さを物語る。



上/彦三が身に付けた鎖帷子(かたびら)。左/門を入るとすぐ土方歳三の銅像が。記念写真はここで。

上/近藤勇の短銃や土方歳三の愛刀の鞘など貴重な品が展示されている。左/佐藤家の子孫で、館長の佐藤福子さん。

DATA JR中央線日野駅から徒歩約8分。第1・3日曜の11時～16時開館(5月は特別開館日あり)。大人500円ほか。日野市日野本町2-15-5。☎042-581-0370

上/近藤勇の短銃や土方歳三の愛刀の鞘など貴重な品が展示されている。左/佐藤家の子孫で、館長の佐藤福子さん。

若き日の近藤や土方の息吹きやエネルギーを感じられますよ。



新選組にまつわるスポットを案内してくれる日野新選組ガイドの会長、芹川孝一さん。



上/本陣前。玄関にあたるのが式台で、身分の高い大名、幕府役人などだけがここから入ることができた。左/土方歳三が昼寝した場所、沖田総司が四股を踏んだ場所など、隊士のエピソードに事欠かない。

日野宿本陣

都内に残る、唯一の本陣建築。現在の建物は、幕末の文久3年(1863)に再建されたもの。大黒柱に約45cm角のケヤキを使うなど、重厚な造り。現在の駐車場のあたりに、かつて天然理心流の道場があり、近藤勇、土方歳三、井上源三郎、沖田総司、山南敬助らが猛稽古に励んだという。

DATA JR中央線日野駅から徒歩約7分。9時30分～17時(入館は16時30分まで)。月曜(祝日の場合は翌日)・年末年始休。大人200円ほか。日野市日野本町2-15-9。☎042-583-5100(新選組のふるさと歴史館)



常設展の様子。

新選組のふるさと歴史館

新選組の誕生から終焉にいたる歴史をたどる常設展のほか、幕末維新や日野宿をテーマとした展示も行う。年3回の特別展・企画展のほか、年1回、郷土にまつわる企画展を開催。新選組の貸衣装も無料で用意され、屯所などの写真を背景に記念撮影ができる。

DATA JR中央線日野駅からバス約2分の「日野市役所入口」下車徒歩約5分、または徒歩約15分。9時30分～17時(入館は16時30分まで)。月曜(祝日の場合は翌日)・年末年始休。大人200円ほか。日野市神明4-16-1。☎042-583-5100



土方歳三資料館

土方歳三の兄の子孫が運営。歳三の愛刀だった和泉守兼定の鞘(刀身は年1回、5月に公開)、名入りの鉢金、鎖帷子、手紙などゆかりの品を約70点展示。庭の一角には歳三が10代の頃に植えたという、節が少なく矢に用いられる矢竹が今も繁っている。

DATA JR中央線日野駅からバス約10分の「日野高校」下車徒歩約3分。第1・3日曜の12時～16時開館(5月は特別開館日あり)。大人500円ほか。日野市石田2-1-3。

ひの新選組まつり



撮影:井上博司

土方歳三の命日である5月に合わせ、毎年5月の第2土・日曜に開催。甲州街道沿いにステージが設けられ、さまざまなパフォーマンスなどが行われる。見どころは新選組隊士パレード。全国から集まった新選組ファンが着物に袴、浅葱色のだんだら隊服姿で甲州街道を練り歩く。

DATA 042-585-1111(ひの新選組まつり実行委員会(日野市産業振興課))



昭和31年の、甲州街道から日野駅方面の風景。撮影:志村章氏

日野・豊田

街の生い立ち

農業の街、養蚕の街として繁栄してきた日野。近年は工業の街としての顔もつ日野・豊田の歴史を振り返ってみよう。

江戸そして東京という一大消費地から近い日野は、江戸時代から、米、麦を中心にさまざまな野菜を生産してきた。一方、明治半ばからは輸出用生糸の需要の高まりに合わせ、養蚕も盛んに行われるようになった。水田を桑畑に転作する農家もあり、次第にその耕作面積が広がっていったという。

現在、仲田の森蚕糸公園には文化遺産として「桑ハウス」が残されている。桑ハウスは当時の様子を知る場として、今も静かに公園内にたたずんでいる。

また交通手段の発達も街に大きな変化をもたらした。明治22年(1889)、立川から八王子まで当時の甲武鉄道が延伸開業した。当初、日野に駅を造る予定はなかったという。そこで、街の有力者は鉄道建設に必要なレンガを供給する日野煉瓦工場を設立。生産したレンガの大半を鉄道建設用に納品。積極的な誘致に加えレンガの恩恵もあってか、延伸開業5カ月後に日野停車場が設置された。日野煉瓦工場は中心人物の死去により、わずか2年半で廃業したが、今も日野の歴史に深くその名が刻み込まれている。

昭和10年代に入ると、東京自動車工業(現在の日野自動車)、六桜社(現在のコニカミノルタ)をはじめ、多くの企業が日野・豊田エリアに工場を建設。今にいたる工業の街としての日野の始まりだ。ちなみに日野自動車の名は、「日野」の地名に由来するのだという。

今、大規模団地の建て替えなど、日野・豊田エリアは再び変化の兆しを見せている。しかし、水のある豊かな自然は変わらぬ風景として守られていくだろう。



最新号『散歩の達人』2月号 発売!

巻頭特集/本当にいい店、教えます
東京日本酒マップ
若手の杜氏が話題になったり、専門店が続々オープンしたり、勢いのとどまることを知らない日本酒ブーム。そこで、大人だからこそ知っておきたい、楽しみたい、日本酒処やウチンクをご紹介します。

※本冊子の情報は2016年1月現在のものです。※料金・営業時間・休館日、イベント内容・期間などは変更になる場合がありますので、事前にご確認ください。※営業時間(休館日)日はゴールデンウィーク、お盆、年末年始などは変更になる場合があります。※掲載の写真・地図などは全てイメージです。

デジタルブックでもご覧いただけます。
中央線が好きだ。 検索

中央線が好きだ。マガジン 2016 vol.5
2016年1月発行
発行|東日本旅客鉄道株式会社 八王子支社
制作|株式会社ジェイアール東日本企画
編集|株式会社交通新聞社
表紙写真|野中真実人(P.M.A.トライアングル)



地域で出会った人

街をキャンパスに人と地域をつなげる



西川さんがコーディネートした「ぬか漬けマラソン」の授業。

「自分が一人目の生徒として学びたいと思うことがコーディネーターの第一歩」と言うのは、東京にしがわ大学学長の西川義信さん。自らもコーディネーターを務める西川さんが、大学に關わるきっかけになったのは、平成23年6月に行われたオープンキャンパス。その日初対面の人とペアになって、多摩地域の指定された市町村に赴き、教室になり得る場所を探してくる。

「多摩地域は都会にも自然にも近く住み心地のいい場所です。私は、国立市に住み、立川の職場に通っていますが、職住とも西側を選ぶ人が増え、ライフスタイルの多様化を実感しています」
にわ大では授業がきっかけで生まれたクラブ活動も盛んだ。山、写真、餃子、スイーツ好きなどが集い、知識と親交を深めている。
西川さんは、こうした集まりとともに、今後は地域内に小さなにわ大がいくつもでき、互いに連携できたらと考えている。
「にわ大は敷居を低くし、多様な人や考えを受け入れることで、何が育つ場になればと思います」
にわ大の役割は種をまくこと。そこから何が生まれ育つのか、今後が楽しみです。

名前の通り東京の西側、多摩エリアの30市町村をキャンパスに見立て、ユニークな学びの場を提供する「東京にしがわ大学」通称「にわ大」。登録をすれば、誰でも自分の興味に応じて授業に参加でき、材料費などの実費以外、登録も授業も無料だ。この「にわ大」は学びを通じ人と地域を結ぶことを目的とする市民団体が運営している。

にわ大のユニークな点は、授業コーディネーターがいて、その一人一人が授業を企画、運営すること。人に伝えたいことや、自らが知りたいことについて先生を探し、そしてテーマに応じて街中や自然の中などに教室も探すのだという。授業の多くは体験型や参加型だが、座学の場合も、一方通行の講義にならないよう進め方を工夫しているという。



西川義信さん
東京にしがわ大学学長

Information

今後の授業の予定やこれまでの授業、生徒の登録などについては下記アドレスから。サイト内ではカルタ形式で、多摩の魅力を伝える「にしがわカルタ」プロジェクトが進行中だ。
<http://www.tokyo-nishigawa.net/>

上の写真はファーレ立川アートのニキド・サンファル作「会話」に座る西川さん。

TOPICS

「ののみち秋イベント」を開催！

武蔵境駅～東小金井駅間高架下回遊歩行空間「ののみち」開業1周年を記念し、「ののみち秋イベント」を開催。地域住民参加のガーデニングイベント、武蔵境の街中を家族で仮装して楽しむハロウィンパレード、親子で楽しめる「家族の文化祭」、多摩エリアの食の魅力が大集合する産直市「ののわマーケット」など多彩なプログラムに、参加者からは「大人も子どもと一緒に楽しめて大満足だった」との感想が多数届きました。高架下に誕生した「ののみち」は、家族で楽しい時を過ごす場所、コミュニケーションを生む場所、地域の魅力を発信する場所になっています。



ハロウィンパレードの様子。

詳細情報は右記URLで <http://www.nonowa.co.jp/>

※画像は全てイメージです。

ののわプロジェクトとは

「ののわ」は、「緑×人×街 つながる」を合言葉に、中央線の立体交差化で北と南がつながった三鷹から立川間の魅力を引き出すプロジェクト。「nonowa(ののわ)」[※]は、豊かな自然や、個性ある文化と駅と街をつなぐ、「武蔵野の『輪・和』になりたい」という願いを込めて名付けられたプロジェクトの名称です。東京のまん中にあるこのエリアで、地域の魅力を共有し、暮らし方や働き方を見つめ直すことで、この地域ならではのライフスタイルを探っていきます。



武蔵野3原色の「土・水・緑」の「わ」が重なる「nonowa」のハート。中央線の自然と文化が融合し、新しいライフスタイルがはじまります。

ののわウェブサイト
<http://www.nonowa.co.jp/areamagazine/>

※株式会社JR中央ラインモールが運営する商業施設の名称としては、英文字で「nonowa」と表記しています。